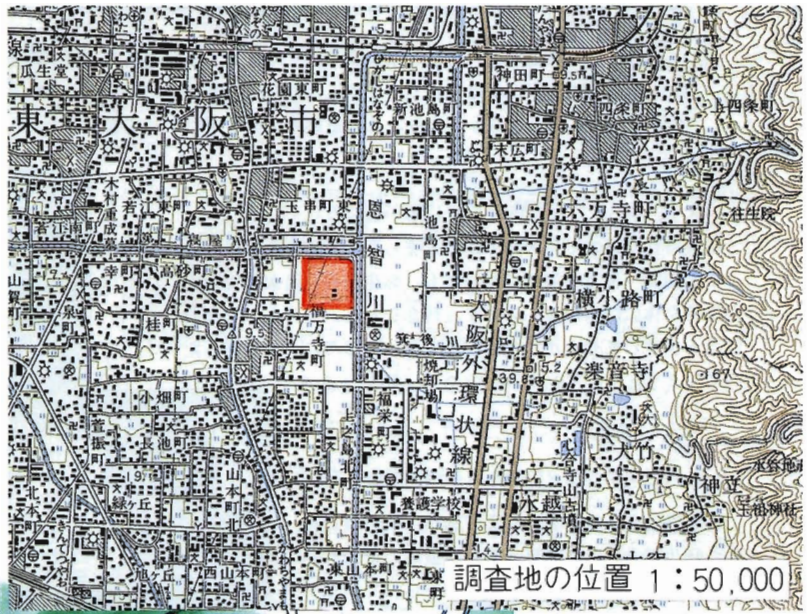
第2回 池島・福万寺遺跡 現地説明会

1990. 12. 16.

(財)大阪文化財センター



梶山・市原両先生の研究成果を参考

池島・福万寺遺跡はタイムマシン

池島・福万寺遺跡は八尾市と東大阪市にまたがる大きな遺跡で、治水緑地の建設にともなって発掘調査がつづけられています。これらの発掘調査によっていろいろな時代のようすがだんだんとあきらかになり、この遺跡の大切さがわかってきました。

弥生時代（2200年前～1700年前ころ）

弥生時代は日本でも米作りがはじまった時代です。

ここ池島・福万寺遺跡においても、弥生時代をとおして水田が遺跡全体にひろがっています。残念ながらムラのあった場所ははっきりしませんが、さほど遠くないところにムラがあったのでしょう。

古墳時代（1700年前～1400年前ころ）

古墳時代は各地で大小さまざまな古墳がつくられた時代です。ここ池島・福万寺遺跡の東にも心合寺山古墳という大きな古墳がつくられています。

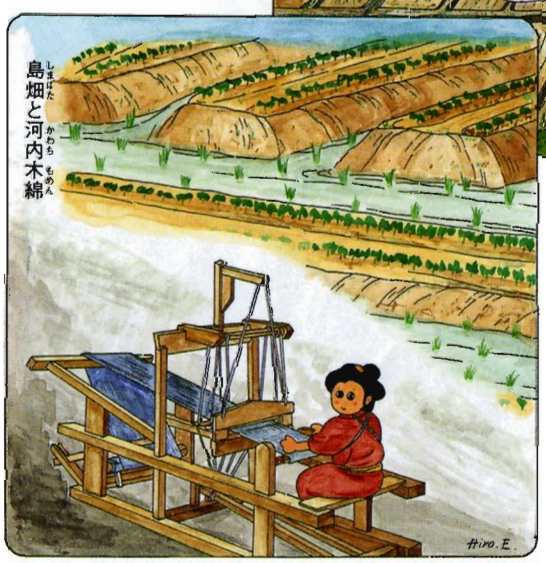
この遺跡ではこの時代にはムラがつくられ、そこではネックレスなどに使うビーズのような玉を石でつくっていたことがわかってきました。

奈良・平安時代（1300年前～800年前ころ）

奈良・平安時代は奈良に平城京、京都に平安京という都がおかれたはなやかな時代です。

それにくらべて、池島・福万寺遺跡の周辺にはのどかな田畑がひろがっていたようです。

ただ、この時代には正方形にきちんと区切られた田畑がつくられるようになりました（条里制）。



鎌倉時代～現代（800年前～）

鎌倉時代から現代にいたるまで、正方形にくぎられた条里制の地割りをまもりつづけ、この遺跡の周辺は田畑として利用されていました。

とくにこのあたりでは畑の一部を高くした「島畑」がつくられ、江戸時代にはそこで綿をさかんに栽培し、それをつかって有名な「河内木綿」をつくっていました。

古墳時代の池島・福万寺遺跡 ―玉つくりの時代―

左のページにも書いたように池島・福万寺遺跡では今からおよそ2200年前の弥生時代から人々の生活のあとが見つかっています。

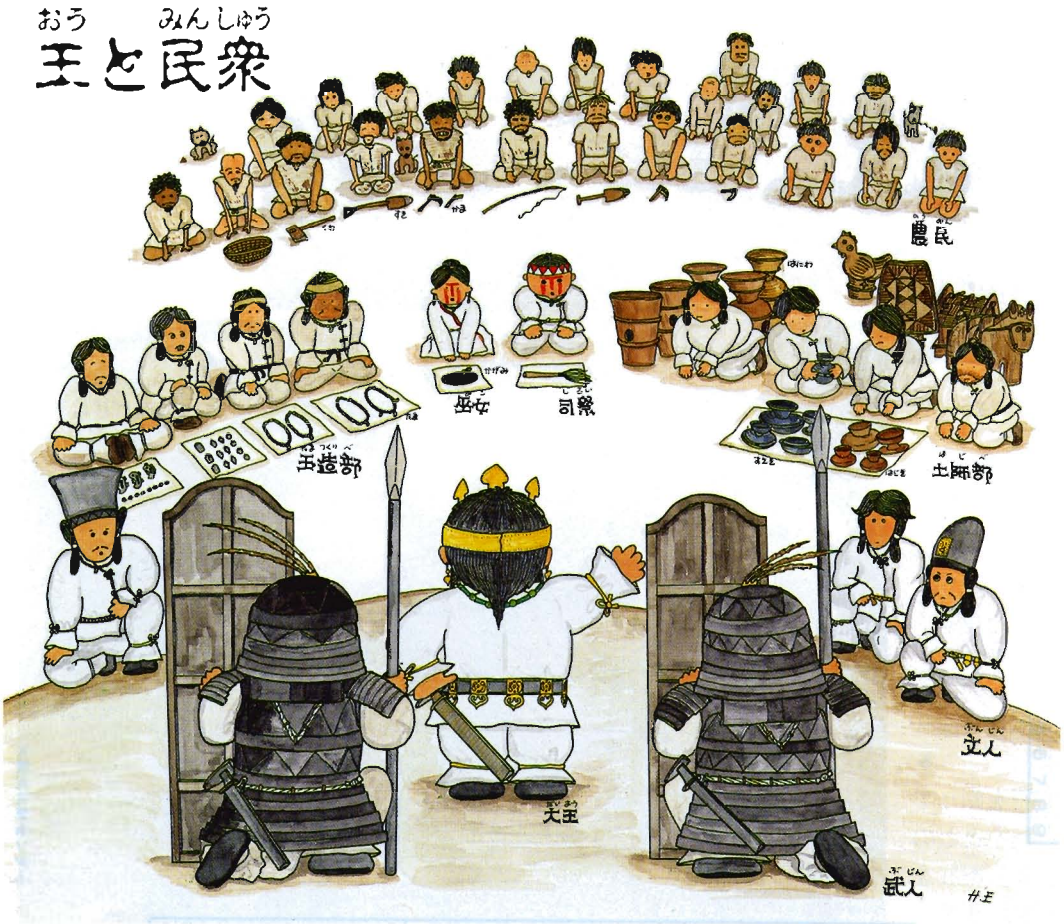
そのうちでも古墳時代になると、このあたりにはムラがつくられて、そこではネックレスやおまつりに使う玉をつくっていたようです。

その証拠に今までの発掘調査では作りかけの玉や作る途中で失敗した玉などがたくさん出土しました。また、昨年の調査では玉つくりに関係すると考えられる家のあと（竪穴住居）が見つかり、その中からもたくさんの玉が出土しました（次のページの写真）。

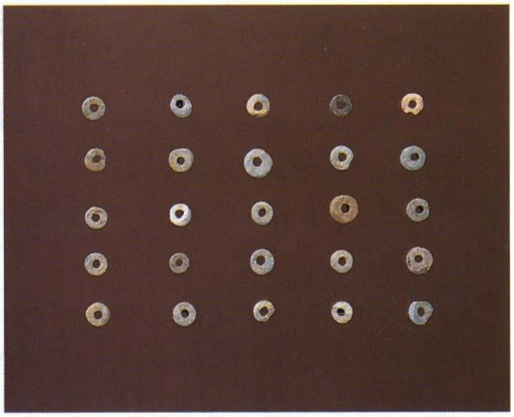
このような玉をはじめとして、下の絵に書いてあるような埴輪や須恵器（５世紀ごろに朝鮮半島から伝わった青くてかたい土器）などの土器、あるいは特別な技術がいるものは、だれでもがつくっていたのではなく、それぞれ専門の人たちがその仕事にたずさわっていました。

この遺跡で発見されたのは玉を作っていた人たちのムラですが、そのほかにもこのような人たちを支配する王様を頂点としてたくさんの人たちがいたことも忘れてはいけないでしょう。

王と民衆



▲ 玉作り工場のあと



▲ 左の工場から出土した玉

〈玉つくり〉

◀ 玉を作っているようす

▶ 石を割(わ)って形をととのえ、あなをあけます

〈土器づくり〉

◀ 粘土を積み上げてツボなどの土器や埴輪(はにわ)をつくります

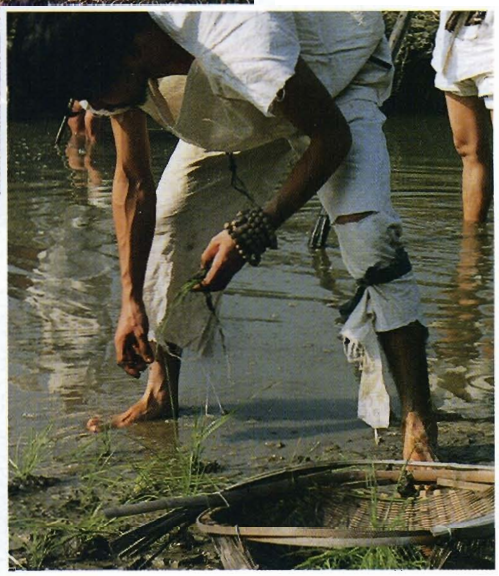
紐(ひも)のようにした粘土を積んで形を作っていきます ▶

◀ よくかわかしてから焼きます

〈米づくり〉

◀「田んぼを
たがやすぞ〜」

「田植えだ、田植えだ〜」▶



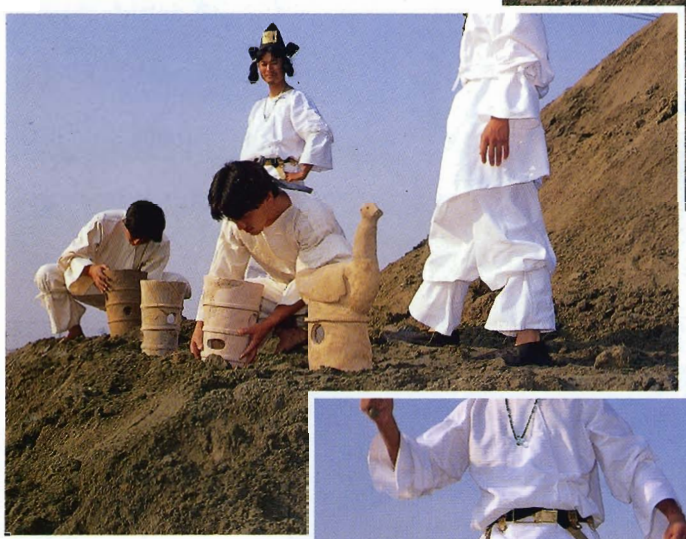
▲「鉄の道具で
ラクチン！ ラクチン！」

▼ 今年もたくさんとれました

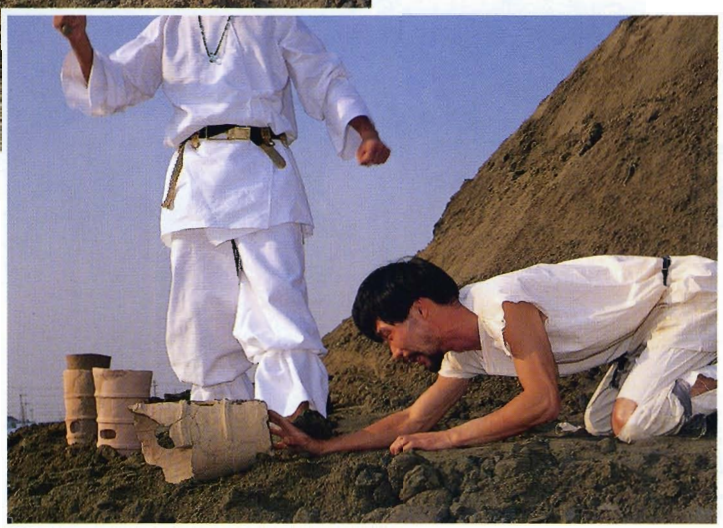
〈古墳づくり〉

◀「どんどん
土をはこぶのダ!!」

「海のむこうには大きな国が
あるそうな・・」▶



◀「ハニワをならべて
完成だ」



「オンドリャー！
大切なハニワを
落としやがったな〜」▶

「ヒィ〜！
どうかお許しを〜」

〈大王と
部下たち〉

▲「神様のお告げじゃ～　ドロトロロ～！」「ハハァ！」

「大王のために戦うぞ！」▶

▼「知恵と力で大王をおたすけいたします」

▲「わしが大王である」